

ひと雨ごとに陽は和らぎ、すっかり秋らしくなりました。みなさんは、スポーツ、芸術、それとも食欲の秋ですか？ここでは読書の秋にちなみ、マリー・ホール・エッツの『わたしとあそんで』という絵本をご紹介します。

『女の子が、森で出会う虫や動物たちに「あそびましょ」とつぎつぎに声をかけますが、おどろいたり、こわがったりしてみんな逃げていってしまいます。だれもあそんでくれないので、たねをとばしたり、池のそばの石にこしかけてみずまじをながめたりしながら、おとをたてずにじっとしていると、こんどはさっき逃げていってしまった虫や動物たちのほうから、女の子のそばへかよってきてくれる・・・』というお話。

保育園で、少し似たことがあります。みんながわいわい遊んでいる部屋の隅っこに、私が何もいわずにぽつんと座っていると、ちょこんとひざにやってきて、「あのね、あのね・・・」とひとしきりお喋りしてもどっていく子。おもちゃをとられて悔しかったと訴えにくる子。ただちょっと甘えにきて満足するとまた集立っていく子。まるで小鳥が羽を休めにくる止まり木のようです。黙ってじっとみていると、子どもたちの様子がよくみえてきます。そして、子どもも必要なときに必要なことを求めにきます。

一所懸命やってもなかなか成果が上がらず、ふっと肩の力を抜いたときにいいアイデアが浮かぶ・・・「まあ、いいか」と思うと急に楽になったり、元気が出てきたりする・・・**多くを求めず、多くを語らず、心を澄ましてじっとしていると、大切なことがみえてくる**・・・そんなことをこの絵本から思うのです。

まだご存じない方、ぜひ一度お読みになってみてください。よかったら、みなさんの感想もきかせてください！

センター長 山浦彩子(やまうら あやこ)

◆♪ いいこといいこと♪ 「ふれあい遊び」

毎日 11:00-11:30

〈水曜日〉 えいごで遊ぼう (大下りえこ先生)

〈月2回 第2第4 木曜日〉

おやこでダンス (近ゆきこ先生)

◆「0歳児つどいの広場」毎週木曜 10:00-11:00



休館日など

◆ 休館日 日曜・月曜・祝日

◆ 大掃除 10/30(水) 9:00-11:00
広場のご利用は11:00から

◆ 職員会議 毎月第3土曜 14:00-16:00 予定
今月は10/15(土)

※広場・一時預かりのご利用は9:00-13:00になります



いいこといいこと♪
広場の遊びから



Saturdays 09:00~12:00

こんにちは。いつもはぶちのお部屋の担当をしているユリアです。今年の4月からの毎週土曜日は広場の担当もさせていただいていました。最初は何をしていけばよいのかわからず、広場に來ている皆さんの様子をうかがいながら少しずつ慣れていこう・・・と、そんなふうに考えていました。でもそんなある日、いつもはぶちに來ているお子さんが広場に遊びに來ていて、「ユリア先生、いいこといいこと、いっしょにやろう!」と声をかけてくれました。その時、何か心の中にかかっていた雲がスーッと晴れていくような感覚をおぼえたんですね。何をすればいいか、なんて考える必要はないんですね。**子どもたちを信じて、彼らにこころの気持ちを預けるだけ**でよかったみたい。そうすれば、**楽しいことは泉のようにわいてくる**・・・

そして、子どもたちと楽しく過ごしていると、自然とママやパパたちとも会話がはずむ・・・そんな素敵な時間が過ごせる広場も大好きになりました。こんなステキな時間をわけてくれる子どもたちに、せめていつも笑顔で迎えてあげられるようでありたいと強く強く想う今日このごろなのでした。



◆相原 ユリア(あいほら ゆりあ) ぶち&ひろは 担当◆



一時預かり
ぶちのお部屋から

ひとりの母としてのつづき

大学4年生の娘が昨日から海外旅行へ出かけました。“行きたい”という話は聞いていたのですが、“行く”と知ったのは先月のこと。旅費やこづかいなど旅行費用は**すべて自力**(バイトなど)で用意して、日程や出かける日時も決まっていたことでした。

思い起こせば、主人の仕事の関係で**海外生活**をすることになり、娘が初めて取得したパスポートの写真は**生後3~4ヶ月**の頃のものです。腰を両側から親が押さえての写真撮影で、半年後、一年後、二年後に飛行機に乗った時、実際の姿とパスポート写真とのギャップにびっくりするほどでした。最初は泣いていた娘も乗る回数が増えるにつれて楽しめるようになっていき、今では飛行機に乗る不安も無いのか・・・**親のアドバイスも援助も無用**とばかりに、海外旅行の準備がすべて整ってから**の報告**でした。(娘の**自立**ということを考えれば)うれしいはずの出来事でも、ちょっぴり・・・いえ、とって**もさみしい出来事**でした。



◆仲下 貴子(なかした たかこ) ぶち 担当◆



ぽけっと



ぽけっと畑だより

台風に負けない植物って…

10.28.fri さつまいも収穫Day

6月に苗を植えてから、
4ヶ月あまり…いよいよ収穫の
日がやってきます！
持ち物は軍手、長ぐつなど、汚れ
てもいい服装で参加してください。
収穫したさつまいもは、
11月20日(日)ぽけっとまつり
で焼いもにします。
おたのしみに♪

先月は大きな台風が葉山を走り回っていきましたが…みなさんのお庭やベランダの植物は無事でしたか？
嵐のあとのぽけっと畑は…それはそれは大変な状態になってしまいました。もう少しで種が熟すところだった
“ひまわり”は全て倒れ、和綿畑も強風にさらされ、ほとんどが立ち枯れに…。まだ青い実もついていましたが、
数日後に枯れて綿の実が早々とはじけてきました。あわてて種を落とそうとしたのかもしれませんが…真夏の日射
しに耐え、ようやく涼しくなって生き生きと花を咲かせたり、実をつけていた植物たちのはかなさに、とても残念
な気持ちになりました。

でも、そんな嵐の中でもしっかり根を張ってがんばっていた植物もありました。一番強かったのは“さつまいも”。
つる性の茎と葉はもともと丈夫で、地面を這っていますから風にあおられてもへいちゃら。「えっ？台風きてた
の？」と言っているかのようにいつもと変わらないさつまいも畑でした。同じお芋でも“さといも”はどうでしょ
う。大きな葉っぱは強風をまともに受けてわさわさ揺れて揺れて…でも「これくらいの風、へいきへいき！」と
言っているかのように、倒れないでしっかり立っています。葉っぱはさすがにびりびりにやぶれていましたが、
根っこがしっかりはっているからまだまだ元気。おいしい“さといも”が収穫できそうです。

多肉植物の“まつぼたん”やポーチュラカは地を這って頑丈ですね。元気いっぱい花を咲かせています。
10月のぽけっと畑は、嵐をのりこえて28日(金)にいよいよ“さつまいもの収穫Day”を迎えます。みんなでがんば
ってお芋を掘って、11月の“ぽけっとまつり”焼いも会につなげていきましょう。“さといも”も葉が黄色になったら
収穫！試食会も楽しみにしてください。

そして、秋は“種まき”の季節でもあります。10月1日は園芸クラブのメンバーで大きなかぶの種をまきました。
来春のお花遊びに向けて、カラーガーデンの種まき予定しています。この季節、ガーデンセンターではいろんな種
が出ています。みなさんのお家でも野菜やお花の種まきにチャレンジしてみませんか？

◆ 淵本明美(ふっちゃん先生) 園芸活動・ぶち担当 ◆

かぶのたねまき…
そして、台風の猛威に負けな
かったさといも(左側)
& さつまいも(右側)



わわたのみ…
はじけた！
ふわふわ



かぶ…
かわいい
芽ができましたあ〜



ふあみさほ ファミリー・サポート・センター

今月は、9月14日に行われた、まかせて会員さんの交流会の内容
をご紹介しますね。最初に、3月11日お子さんのお預かりをし
ていたSさんとTさんから、当日の様子を伺いました。2歳の男の
子のお預かりをしていたSさん。地震直後、保護者との電話がつか
がり、まず安全であることを伝えられたこと。その後、津波の心配
もあり一時避難所へ避難。落ち着いてから自宅へもどったこと。幸
い自宅は停電していなかったため不都合はなかったが、約束の時間
に保護者宅へ送る際停電のため信号が消えていたことなど、当日の
様子をお話していただきました。Tさんは、小学校の放課後のお預
かりの予定でした。小学校へお迎えにいくと、緊急時の登録をして
いないので引き渡しをしてもらえず、その足でセンターへ寄り状
況を報告してくださいました。センターはTさんから状況を伺うと、
直ちに避難所となっていた小学校へ様子を確認。その後保護者の方
との連絡など、お子さんの安全・安心の確保のために動きました。

また、葉山町防災担当職員の福本さんからは、災害時の対応、町
の防災体制、地震の時の心構えなどをお話していただきました。
支援会員さんには、安全を確保することを第一に考えてほしいこと。
最初の揺れがおさまってから行動すること。津波対策として、町で
は電信柱に海拔の表示をすすめていることやハザードマップを作成
していること。日頃から、防災の意識をもって行動することの大切
さなどを話していただきました。

大震災から半年。私たちも自分た
ちの身の回りの安全について、避難場所
の確認や連絡方法・待ち合わせ場所な
ど家族で話し合うなど、減災の意識を
持つ大切さを実感しました。



アドバイザー一同

編集後記 子のこころ 親のこころ

あたりまえの生活をたいせつに

衝撃の同時多発テロから10年。米国NYの天空にそびえ立つ、ワールド
トレードセンターのツインタワーが崩れ落ちた日…夜中TVでリアルタ
イムに観た映像は、いまでも戦慄とともに脳裏に蘇ります。今年の9・11
は東日本大震災後ちょうど6ヶ月。日本にとっても哀しみと向き合う日
でした。家族やたいせつな人を亡くされた方、放射能被害で住むところ
を追われた方、仕事を失ってしまわれた方…多くの方々苦しみに思い
を馳せて、一日でも早くひとりでも多く元気になることを祈るばかり
です。そして、義援金、ボランティア…あらためて自分には何ができる
のか、継続して実践する必要も併せて考えさせられました。

「命」「家族」「日々の生活」…あまりにも身近であたりまえにして
いたものが存在しなくなるかもしれない。極限状態を想定すると、その
存在の大きさを再認識します。それなのに日頃感謝することなく意外に
“ぞんざい”に扱っていたのではと、ドキリとさせられました。感情に
流されたり自分の都合を優先させていなかったか、夫や子どもの気持ち
を丁寧に受けとめていたか、努力すればもっとできたのではないか…。
月並みな表現ですが、多くを望まず家族が健康でいっしょに笑い合えること
が幸せの原点なのだと思ふ意識せずにはいられません。いちばん身近な
存在をたいせつにすることからまず始めよう。ひとつひとつの家族が元気で
いれば、日本は必ず元気になるはず。人と人のつながりが希薄といわれ
る時代、若者たちが震災の復興事業やボランティア活動にすすんで参加
している姿に、日本はまだ大丈夫とこころよく感じたのは私だけ
でしょうか。未曾有の災害を経験しても悪いことばかりではなかったと
将来思えるような社会にしていきたい…子どもたちのためにも。

◆ 上野 祐子(うえの ゆうこ) 副センター長・心理相談担当 ◆